

～第67回日本小児保健協会学術集会を開催するにあたって～

第67回日本小児保健協会学術集会を2020年11月4日(水)～6日(金)の3日間、開催させていただきます。久留米大学医学部小児科学講座第4代船津維一郎主任教授が1970年に第17回の本会を主催して以来、実に半世紀ぶりに久留米での開催です。新型コロナウイルス感染症の影響により、6月から11月に会期を延期しましたが、収束を見通すことができず、国内の安全もまだ不透明な現状です。最終的に現地開催を行わずWEB開催とさせていただくことになりました。現地でのご参加・ご発表・交流を楽しみにしていた皆様には大変申し訳ございません。WEB学会に参加いただく皆様にご満足いただけるよう事務局一同鋭意準備を進めて参りました。

近年、社会情勢の変化により子育てにさまざまな困難を伴うようになってきました。虐待、不登校、いじめ被害、ネット依存、自殺、発達障害、医療的ケアを要する子どもたち、災害時や新型コロナウイルス禍での子ども支援などさまざまな問題が生じております。2018年12月に成育基本法が成立し、子どもの健全な育成は国や市町村、関係機関の責務であることが明記されました。しかし、その具体策については、まだ明確なものがありません。子育ての悩みは、妊娠から出産、乳幼児～学童～思春期まで続くものであり、子どもたちと家族への切れ目のない子育て支援を実現することが求められています。そこで、本学術集会のメインテーマを「妊娠・出産から思春期まで切れ目のない子育て支援」といたしました。テーマに沿った子育て支援の各地でのさまざまな実践はもちろん、これまでの小児保健協会の歴史をふりかえって子育てを考えたり、今後10年の小児保健を見据えた若手学会員によるシンポジウムを行います。若手奨励賞、優秀演題賞に選出された演者にはWEB講演を予定しています。心に残るWEB学会になりますよう皆様のご参加をお待ちしています。

皆様のご健勝をお祈りするとともに、新型コロナウイルス感染症の完全収束を切に願っております。

2020年8月12日

第67回日本小児保健協会学術集会

会頭 山下 裕史朗

久留米大学医学部小児科学講座